

11. 小児 AMR 対策セミナー

8月28日(日) 9:00～14:00/14:10～15:10

共催：第31回日本外来小児科学会年次集会
日本小児感染症学会 教育委員会
AMR臨床レファレンスセンター

第5回小児AMR対策セミナー

ワークショップは要事前申込(専門医共通講習「感染対策」は不要)

スケジュール

9:00-14:00 ワークショップ(事前申込制。ただし、11:30-13:00はランチ休憩)

14:10-15:10 一般小児科外来で遭遇する感染症と鑑別すべき重症感染症

講師 宮入 烈 (浜松医科大学小児科学講座) 専門医共通講習「感染対策」

ワークショップ

リーダー 明神 翔太 (国立成育医療研究センター)

サブリーダー 大竹 正悟 (兵庫県立こども病院)

薬剤耐性菌 (Antimicrobial resistance : AMR) の拡大は世界的な問題であり、抗菌薬適正使用は喫緊の課題である。外来小児科学会での第1回・第2回の開催では、小児科医を対象とした講義とワークショップを行い、第3回はクリニックの看護師や薬剤師を対象にオンラインで、講義とAMR対策を推進している先行事例の紹介(看護師・薬剤師)を行った。第4回も新型コロナウイルス感染症の流行の影響でオンラインでの実施であったが、講義や事例紹介だけでなく、希望者を対象としたグループワークを行った。オンラインの環境下ではあったがグループワークは滞りなく実施することができ、AMR対策にまつわる様々なテーマに関して活発なディスカッションを行うことができた。第4回までの開催で、本邦の抗菌薬処方9割を占める経口剤の適正化は、小児科だけでなく他の診療科、看護師、薬剤師(地域薬局)、市民、行政をまきこんだ、地域一丸となった取り組みが重要であるという結論に至った。また2016年に策定されたAMR対策アクションプランはまさに5年毎の見直しのタイミングであり、医療従事者は今一度AMR対策として自身にどのようなことが出来るかを見つめ直す必要がある。第5回は再び日本外来小児科学会年次集会における現地開催(新型コロナウイルスの流行状況次第ではweb併用)を目指しており、小児診療に関わる全ての職種を対象とした講義および事例紹介と小グループに別れたディスカッションを計画している。これまでの4回の開催の経験から、今回も講義や事例紹介を通じてAMR対策において各職種で出来ることを考え、実際に抗菌薬処方を行う医師にとっては他職種の考えを知ることにより気づきの機会となるようなワークショップにしたい。

対象：看護師、薬剤師、医療事務、医師、その他外来で子どもに関わる職種の方々

定員：30名(要事前申込)